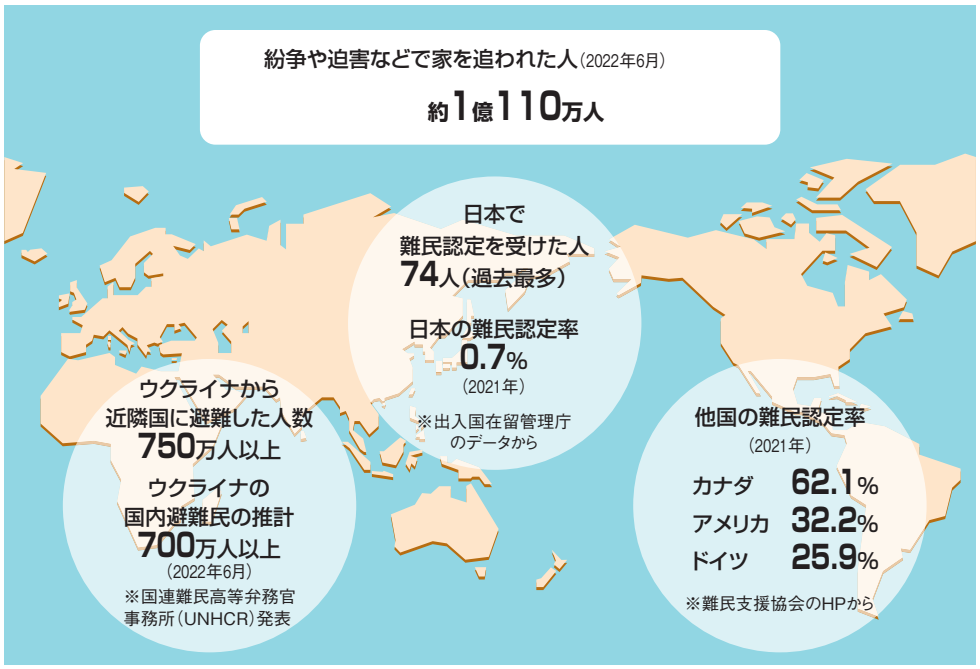
日本で暮らす難民に「言葉の壁」

6月20日は「世界難民の日」



小野久美子さん
＝本人提供

迫害や暴力から国を逃れてきた難民や避難民は世界に1億人以上います。難民の保護を目的とする難民条約に日本も加盟しています。一方で、日本では日本語が話せないと暮らしにくいという「言葉の壁」があります。日本に暮らす外国人に、私たちができることは何でしょうか。6月20日は国連が定めた「世界難民の日」。みなさんもいっしょに考えてみましょう。（近藤理恵）

欠かせない日本語、買い物など不自由

国を逃れて日本で暮らす人の多くは、最初は日本語がほとんど理解できません。

関東地方に暮らすミャンマー少数民族の女性（40歳）は、2007年に迫害から逃れるため日本にやってきました。今は日本語が上手ですが、最初はお金も少なく、独学で日本語を学んでいたそうです。教科書などは買えず「テレビなどを見て勉強しました。日本語ができないと買い物もできなくて困った」と言います。限界を感じていたところ、ボランティアで日本語を教えてくれる学校の存在を知り、学ぶことができました。「日本語が話せるようになったことで、安心して暮らせるようになった」といいます。

小野久美子さんは大分県で日本語学校を運営しています。生徒は学生です。中には、内戦で国を逃れたシリア人もいました。おもに社会人や県内の大学の留学生です。

小野さんはかつて、政治が不安定なアフリカ・南スーダンから来た女性の留学生に日本語を教えていました。赤ちゃんがいらっしゃいましたが、日本語が読めないため、日本語学校を運営しています。生活する上で欠かせない」と時間がかかります」。

今、攻めが外国に逃れ、難民になっています。日本にも1300人（14日現在）が逃れてきています。

小野さんによると、子どもの場合、日常生活で使う言葉は1、2年ほどで話せるようになるそうです。でも「算数や理科に出てくるような日常生活では使わない言葉を理解するには、もっ

やさしい日本語のコツ

ハ　1　はっきり言う
例）行かないわけじゃない➡行きます

サ　2　さいごまで言う
例）エアコン?➡エアコン消します。いいですか?

ミ　3　みじかく言う
例）明日は給食がないのでお弁当を持たせてください
➡あしたは、給食がありません。　お弁当をお願いします。

※小野さんの資料から作成

「やさしい日本語」で話しかけよう

日常会話はできるため、「勉強ができないのでは」「さぼっているんじゃないか」と誤解されてしまうことも。「問題に気づかれにくいことがある」と小野さんは心配します。

そのため、日本語教師といった、言葉のプロが助けに入ることが必要だとうったえます。

小野さんは、外国人と話すとき、日本人の側がやさしい日本語を使うことをすすめます。「例えば『生年月日は?』と聞かれて理解できなかった外国人に、『誕生日はいつですか』と質問すれば答えられたこともあります」。

「やさしい日本語」のコツは、「ハサミ」です。ハは、あいまいな表現を使わずに「はっきり」言うこと。サは、文の「最後」まできちんと言うこと。ミは、一文を「短く」して言うこと。

小野さんは「難民の問題は遠い国の話ではありません。難民のことを知り、話し合ってください。そこから支援の輪が広がります」

日本語学校で授業を受けるウクライナ人生徒たち（右列）＝5月、東京都　©朝日新聞社